

人工股関節置換術について

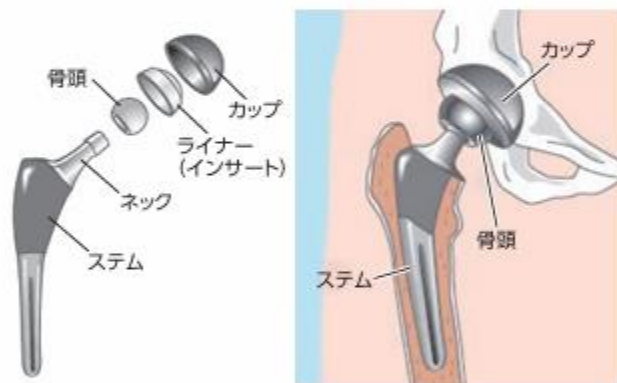
立川総合病院
整形外科 医長
鈴木 勇人 先生



1. 人工股関節置換術とは

人工股関節置換術は、大腿骨頭を取り除き、骨盤側の受け皿である寛骨臼に半球状のカップを入れ、大腿骨の中にステムといわれる金属を挿入し、ステムの先に骨頭の代わりとなる丸い頭を取り付けて、人工の股関節を作る手術です(図1)。

痛みの原因となる部位を取り除くため痛みをとる効果に優れており、動きも改善することが多く、ほとんどの方で足の長さをそろえることができます。手術前の状態にもよりますが、一般的な日常生活はほぼ制限なく送れるようになることが多いです。近年では人工股関節の成績向上に伴い手術の件数は増加しており、当院では年間200件近くの人工股関節手術を行っております。



【図1】人工股関節置換術

2. 人工股関節置換術の適応と手術時期

人工股関節は変形性股関節症や大腿骨頭壊死などで股関節に痛みや動きの制限がある方で、手術以外の治療では改善しない方に適応になります。手術時期は基本的に患者さんの希望に沿って決めます。しかし、手術で筋力を回復することはできませんので、著しく筋力が低下してしまうより前に手術を受けることをお勧めしています。また、関節の変形が進む前であれば、人工関節ではなく自分の関節を温存した治療も可能な場合がありますので、股関節に疼痛のある方は定期的に診察を受けることをお勧めします。

3. 人工股関節置換術の入院から術後の流れ

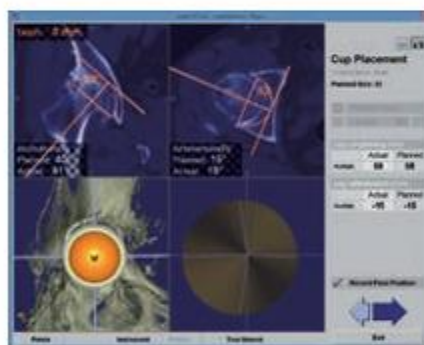
当院では、手術の前日に入院していただき、術翌日からリハビリテーションを開始して、術後10日～2週間程度で退院することが一般的です。また、術後1か月程度で通常の日常生活は問題なく送れることが多く、3か月ほどで重労働の復帰も許可しております。また近

年では人工股関節の耐久性の向上から、スポーツも許可される傾向にあり、当院でも術後3か月以降はスポーツの復帰も許可しています。ただし、繰り返し衝撃の加わるランニングやコンタクトスポーツ(サッカー、バスケットボールなど)は避けたほうが良いといわれています。

4. 当院での人工股関節置換術の特徴

近年では10cm弱の小さな切開で筋肉を切らずに人工股関節手術をする方法が確立してきており、当院でもこの方法で手術を行っています。このことで、術後の回復が早くなり、術後10日～2週間程度で歩いて退院できることが多くなりました。

また、人工股関節はカップやステムといった人工物を入れる位置や角度が重要な手術です。これらが不適切であると脱臼や早期のゆるみ、破損といった術後合併症につながる可能性があります。そのため、当院ではナビゲーションシステムを導入しております。ナビゲーションシステムとは、手術前に計画した適切な位置、角度に人工関節を設置できるように術中にナビゲートしてくれる機械です(図2)。この機械のおかげで、傷が小さくてもより正確に人工関節を設置することができ(図3)、術後の合併症のリスクを減らせることが期待できます。



【図2】術中ナビゲーション画面



【図3】ほぼ術前計画通りに人工股関節が設置できています